

編集後記

今回、スポーツ科学研究所報第4号(2009年)を年度内に刊行することができたことに際し、関係者の皆さまには深く感謝しております。本学は今年度初めて、大学の教育研究水準の向上に資するために義務付けられている認証評価を受けるにあたり、教育研究、組織運営および施設設備の総合的な状況に関しての自己点検評価を行いました。このことは我々教員にとっても、教育、研究、社会貢献、管理・運営という視点で自分自身の活動を見直すよい機会となりました。人により、時期によりそのウエイトの置き方はさまざまですが、大学教員である以上すべての領域における活動が求められているという現状をあらためて実感させられました。このような背景から、今回の所報では本研究所の活動報告や所員の業績紹介を重視したつもりですが、残念ながら研究成果としての論文に関してはまだまだ満足のいくものにはなりませんでした。

今春からはいよいよスポーツ福祉政策コースとしての本格的な授業が始まり、研究会も開かれます。スポーツ科学研究所の活動の充実とともに、法学部に初めて開設されたスポーツ系コースとして教育内容の充実も図っていかねばなりません。今回の自己点検評価を機に、今後のスポーツ科学研究所ならびにスポーツ福祉政策コースのめざす方向性を再度見直し、全員で力を合わせて歩んでいきたいと思いを。

(高野千春)

投稿された論文に対して査読の労をとってくださったのは、以下の先生方です。記して謝意を表します。

吉田博幸(東京家政学院短期大学) 安松幹展(立教大学) 渡邊将司(茨城大学)

編集委員

高野千春, 久保潤二郎, 西川誠太